

はじめに

二〇二三年七月、わたしは死のうとしました。しかし死ねなかった。一時的に入院をして、点滴の傷が残って、でも体が綺麗に戻ったら今度はちゃんと死のう。そう思いつつも、騙されたつもりで治療を進めていました。きっと本当は生きたかったんでしょね。

それまで続けていた紙の日記が、急速に重力に勝てなくなったことで続けられなくなって、代わりみたいに始めたのが今も更新し続けているブログ「令和乙女日記」です。

この本は、乙女として生きていくことに活路を見出したわたしが今日まで生きてきた記録。わたしの日常や、頭の中や、ブログをひとつの読み物としてまとめたつもりです。

どこから読んでも構いません。全部読まなくても大丈夫です。ただどうか、わたしが呼吸していることを、あなたに知ってほしいのです。

詩 恋降るシュガー

ふわふわあまい綿

めいっぱい口に入れて

すぐに溶けて

何度もくりかえす

食べつづけるのに飽きてもどんどん増えつづけて
押しつぶされてしまいそうただの砂糖なのに

ほかのだっておいしいのに気づいたらこればかり

あまい

おいしいしあわせ

すこしずつ変わるくもの味

私信の章

♪大好きな貴方へ

わたくしが貴方のファム・ファタールでありますようにと願います。

貴方がわたくしの運命の人であることは違い無いのです。それは、恋愛的な赤い糸で結ばれたものかもしれないし、広義の運命としてのそれかもしれない。何にせよ、貴方がわたくしの人生に大きく横たわっていることは確かで、そして本来貴方はわたくしの世界に入ってくる予定の無かった方だと思うのです。わたくしは初め、貴方と出会いたての頃、貴方と縁を切ろうとしたことがありましたよね。思えば、あの時にわたくしと貴方の関係は絶たれる予定だったのだと思います。けれど、神様の気まぐれか、はたまた予定調和すら飛び越えたわたくしのものすごい我儘かで、わたくし達の縁は再度繋がった。繋がってしまったのです。

その時からわたくしにとって貴方が運命の人であることは決まっておりました。最初は小さな違和感と好奇心、だけどそれは徐々に膨らみ、淡い恋心と依存へと変貌致しました。わたくしはこのあまりに大きな感情の扱いに困り、何度も貴方を困ら

♪ドールへの憧憬

女のコはかわいくないと生きていけない。わたくしはお人形さんになりたいのです。
ドール。DOLL。

生殖なんてしたくない。感情なんていらぬ。ただ美しくあれればそれでいい。性欲なんて邪魔だし、快感なんて必要ないし、ごはんなんて食べたくない。眠れない夜に涙を流したくないし、両親の尻拭いもしたくなんてない。

お人形さんは、遊んでくれる女のコがいないと存在できないのでしょうか。いえ、そんなことはない筈。ドールは何に依存することも無く、ただ孤独に高潔に存在している美の実体の筈。

胸なんていらぬ。子宮なんていらぬ。五感なんていらぬ。それよりも宝石のような瞳が欲しい。瞳がキラキラと輝くのなら、それに映る周りの世界だって幾分か輝く筈ですもの。この世界はとても穢いけれど、わたくしがお人形さんになれば少しは違って見える筈。

人間の体のまま、醜い臓器を内に宿したままいくら外面を着飾ったところで限度がある。ロリイタファッションに身を包み、日傘を差しながら優雅に歩いたとて、猫背は